

厚生労働省委託事業  
聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会  
2020

## 【講演 2】

# 聴覚障害児・者との 対話から見えてきたこと

松崎 丈 氏

(宮城教育大学教育学部 准教授)

# はじめに

## ■ 「社会的引きこもり」の定義

- ・ 社会参加をしない状態が6か月以上持続しており、精神障害がその第一の原因とは考えにくいもの。病名ではなく状態を表した名称。
- ・ 自分は自分であると感じたり行動や考えの出発点に自分があると感じられる「**自己愛**」とも関連するといわれている。

## ■ 「社会参加をしない」ということの意味

- ・ 家族以外の対人関係がないということ。  
学校や職場に籍がない。  
家族以外との親密な対人関係（友達、恋人など）がない。
- ・ 対人関係を欠いた状態で長期化していることが多い。
- ・ ただし、これは単一言語使用が前提。

# ろう・難聴当事者にとっての社会

前述の「社会」は、ろう・難聴当事者から見れば、以下の2つに大きく分かれているといえる。

①聴者で構成されるマジョリティ社会

②ろう・難聴当事者で構成されるマイノリティ社会

それぞれの社会への参加の仕方も異なる。これが、ろう・難聴当事者におけるひきこもりと関連している可能性。そこで、自己と対話に関わる理論と私自身の実践経験から見えてきたことを報告。

# 自己の成長につながる重要な他者

- 精神分析学者コフートの理論。
- 自己は、**重要な他者である「自己-対象」**から、生きるために大切な諸能力を取り込む（他者の人格もセットで取り込むこと）。
- その取り込み過程を「**変容性内在化**」と言う。多くの重要な他者（自己-対象）」との出会いで「**変容性内在化**」が多ければ多いほど、**自己の成長が促される**。

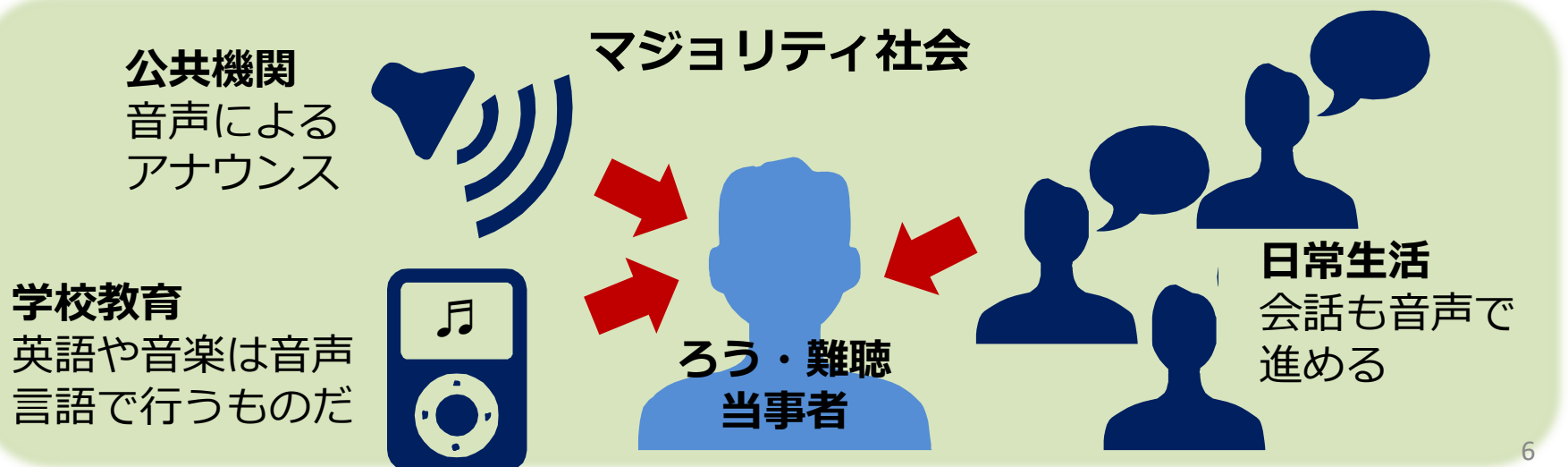


# 重要な他者

- 精神科医サリバンの用語。
- 子どもの世界でもっとも影響力を持つ人物を指す。
- 子どもが感情移入をする対象として「重要な他者」が用いられるときは、通常は**母親**を指すことが多い。
- 社会化の対象として世界の見方を学ぶときには、**両親や教師、親友**を指すことが多い。
  
- ろう・難聴当事者が出会う他者は**マジョリティ社会に属する聴者であることが多い。**
- 自己の成長につながる重要な他者として、**マイノリティ社会に対する聴者の態度は重要。ただし意思疎通できる聴者は限られがち。**さらに、**マイノリティ社会にいる重要な他者との出会いも**考えねばならない。

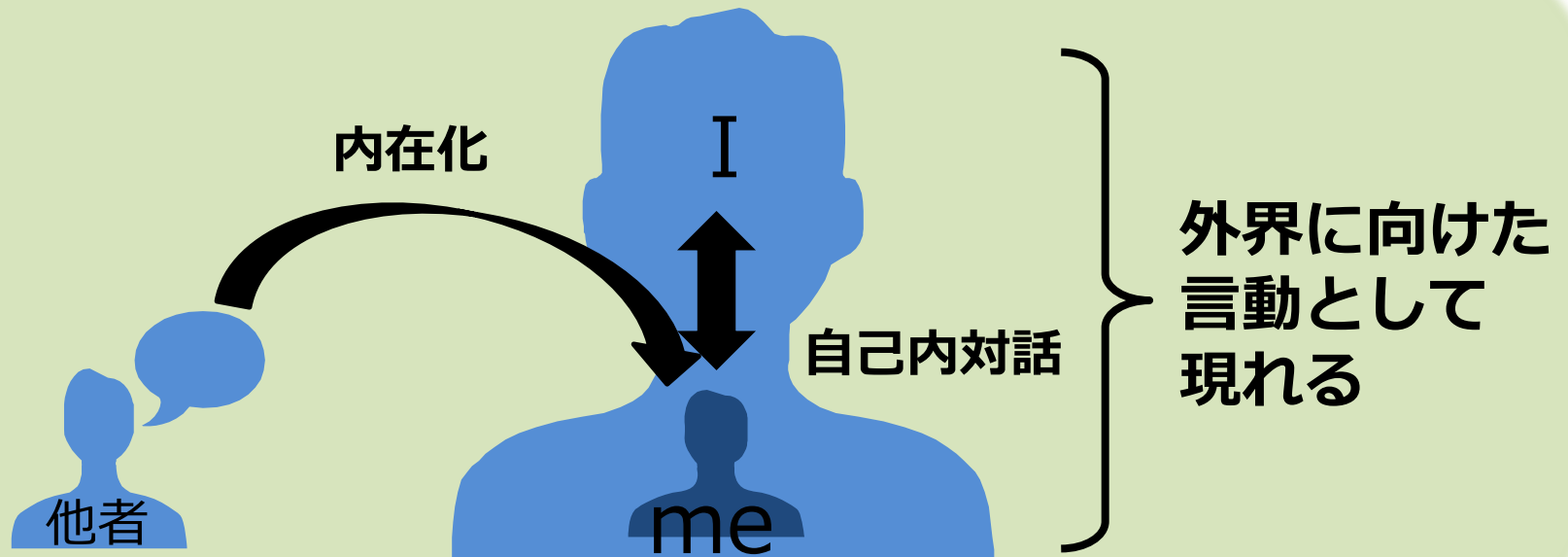
# 自己の変容性内在化に関わる 外界のディスコース

- ディスコースとは、ある社会を作ったり維持する「**人々の対話による合意**」によってつくられたもの。合意には、目に見えない暗黙の**価値基準**がある。
- 「人々の対話による合意」で作られた**思い込みや偏見も含まれる**。例えば、マジョリティ社会に観察されるディスコースの一例で「音声で話せるなら耳も聴こえているはず」「人一倍頑張れば話せる」「聴こえる方が幸せだ」。



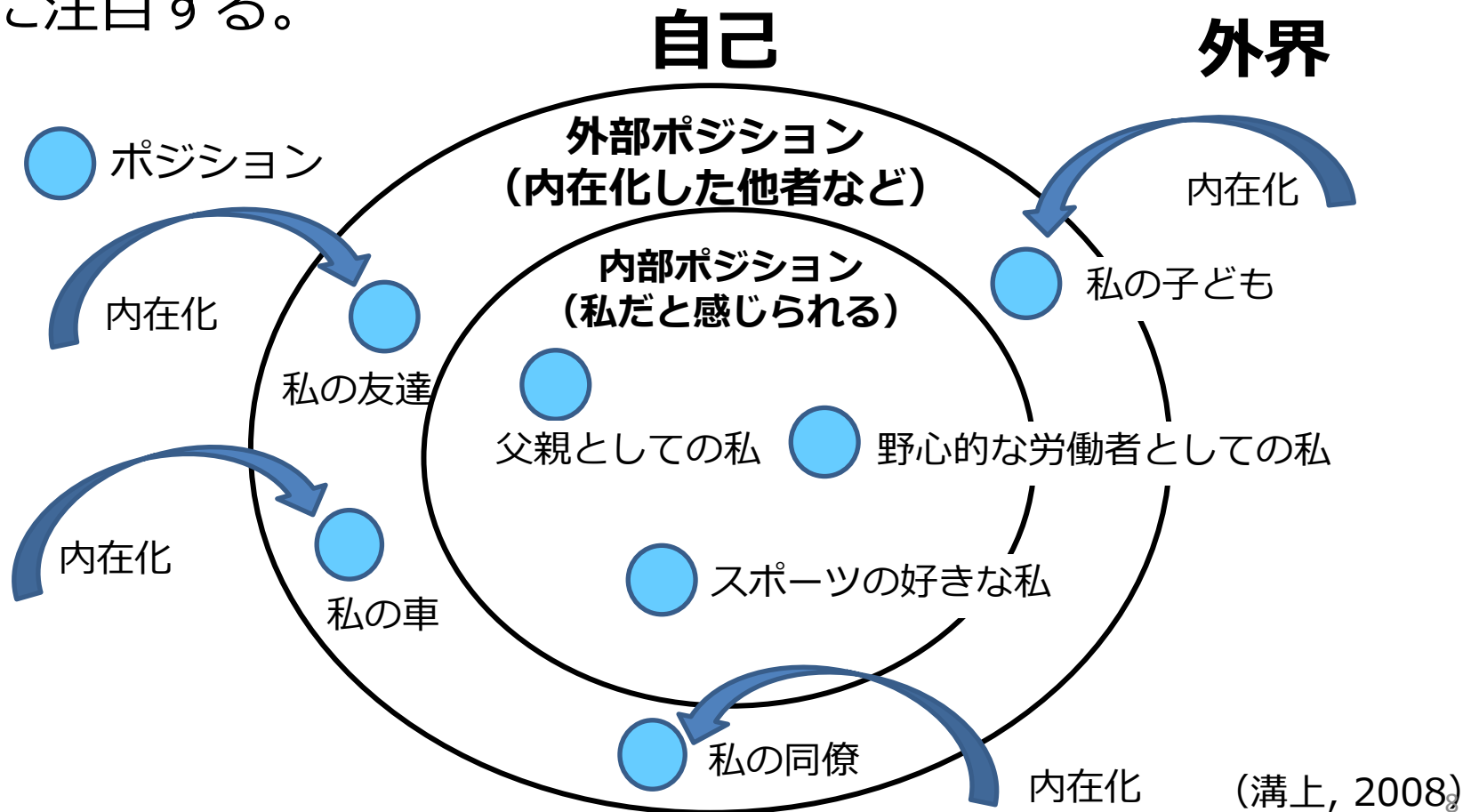
# 内在化した他者（me）との対話

- 心理学者ミードによる用語。
- 他者の役割や態度をmeとして内在化させ、行為主体としての私（I）はそのmeと言語を用いた自己内対話を用いて言動する際の一連のプロセス。
- 自己内対話が生きやすい方向に向かっているかが問題。



# 様々なmeと対話する

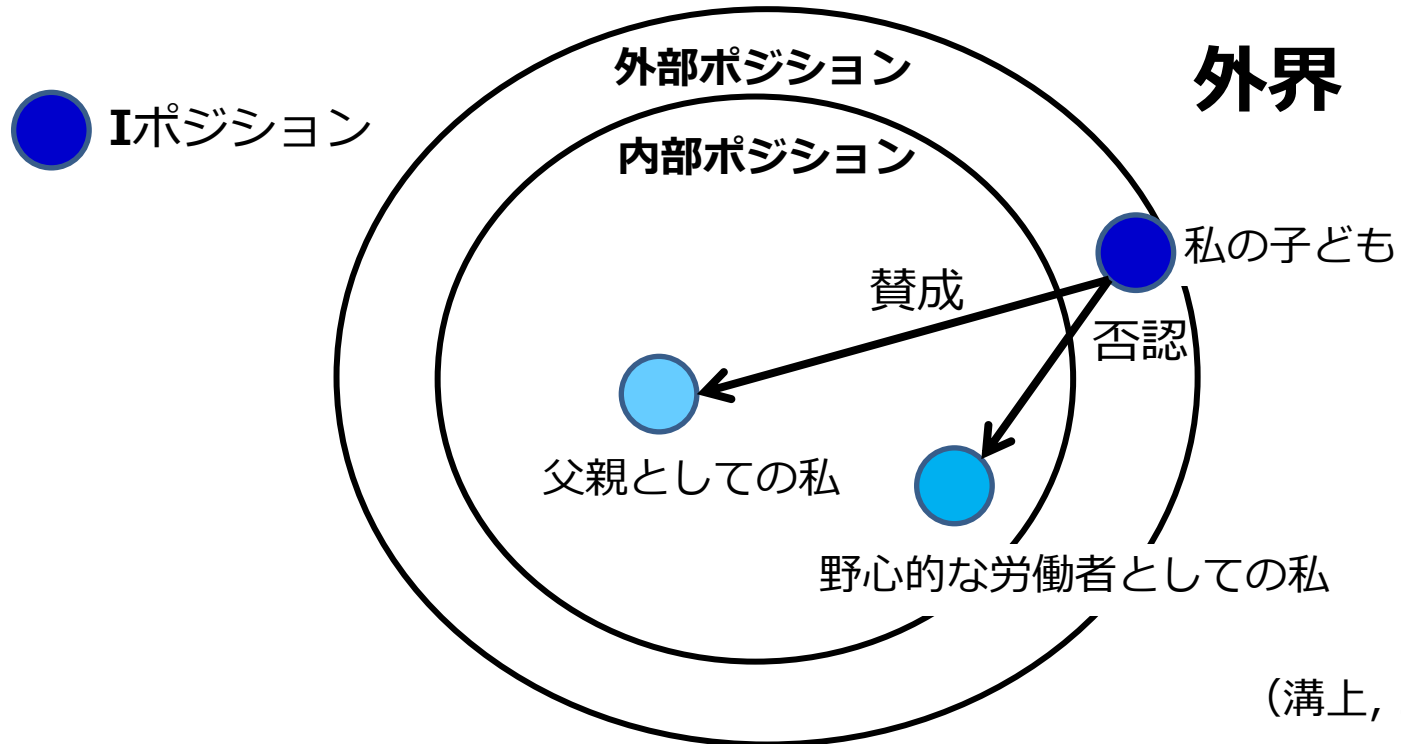
- 心理学者ハーマンスが提唱した「**対話的自己論**」。
- 自己の世界に存在するさまざまな「私」、他者、モノを「**ポジション**」に変換し、**ポジション同士の対話的關係**に注目する。





# ポジション同士の対話的關係

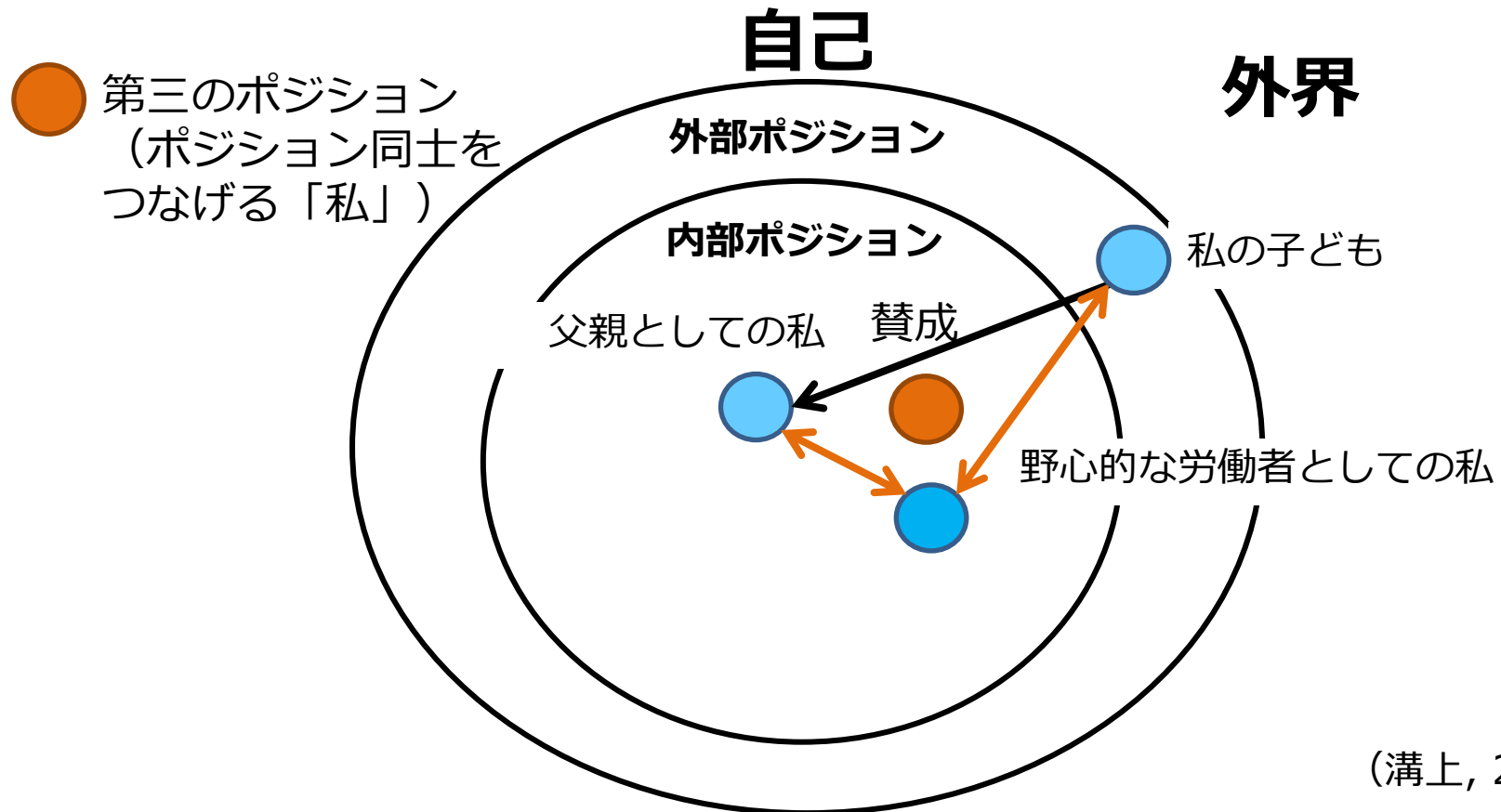
- ある状況におけるポジション同士の対話が、その状況における**自己物語**を構築。
- あるポジションにおける「私（Iポジション）」は、他のポジションにおける「私」に対して、賛成したり反対したり、理解したり誤解したり、対抗したり否認したり、疑問を発したりあざけったりする。



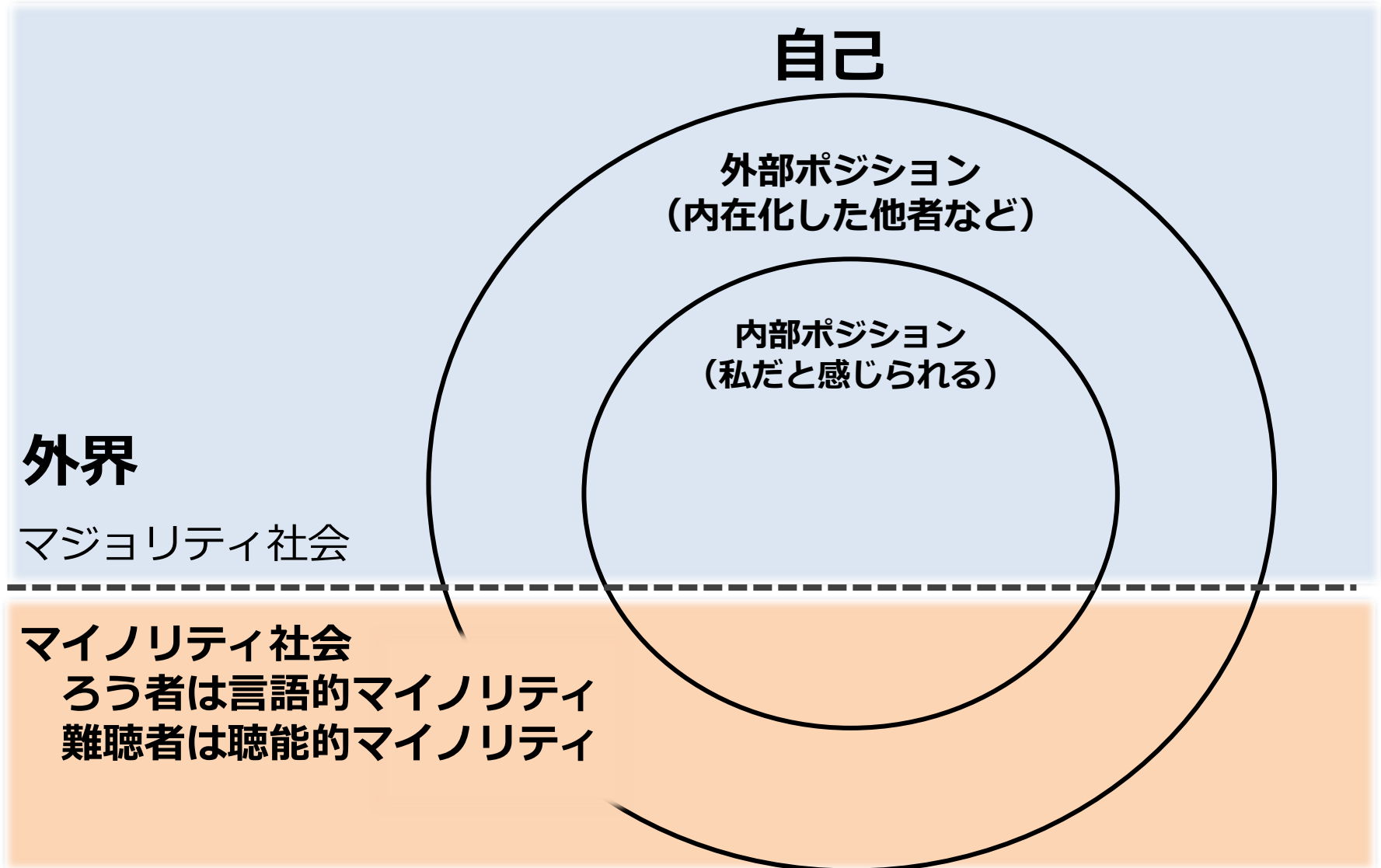
(溝上, 2008)

# メタ的な視点を持つ第三のポジション

- 第三のポジションはポジション同士の関係に注意を払う。
- 全体としての自己の総合を達成すべく、他のポジションを並列させたり相互連関させたりする。つまり、**新たな対話的關係を構築する役割**を担っている。



# 外界には2つの社会がある



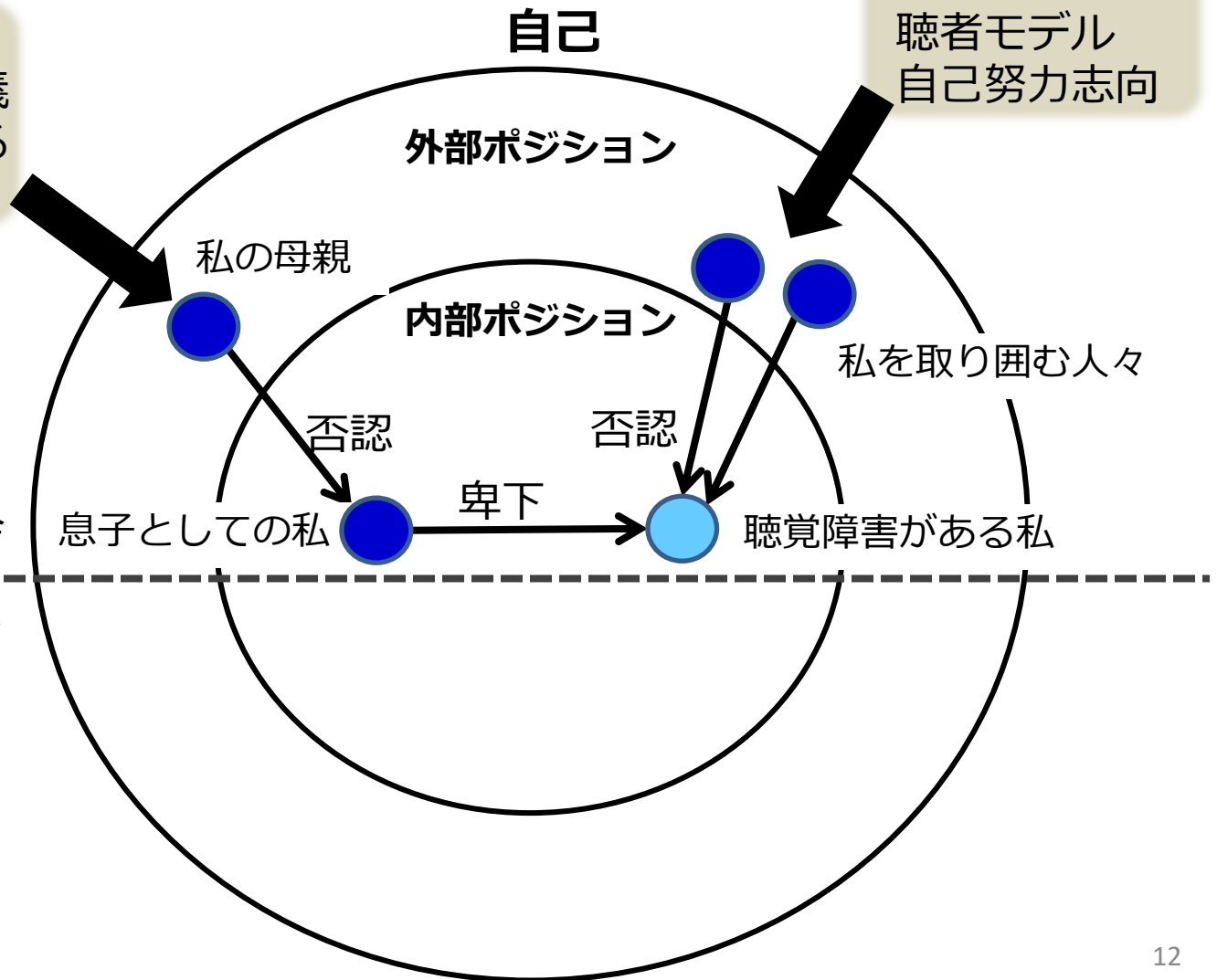
# Aさんの事例①

ひきこもり以前の対話的關係

ディスコース  
口話主義・聴能主義  
聴覚口話法における  
母親努力志向

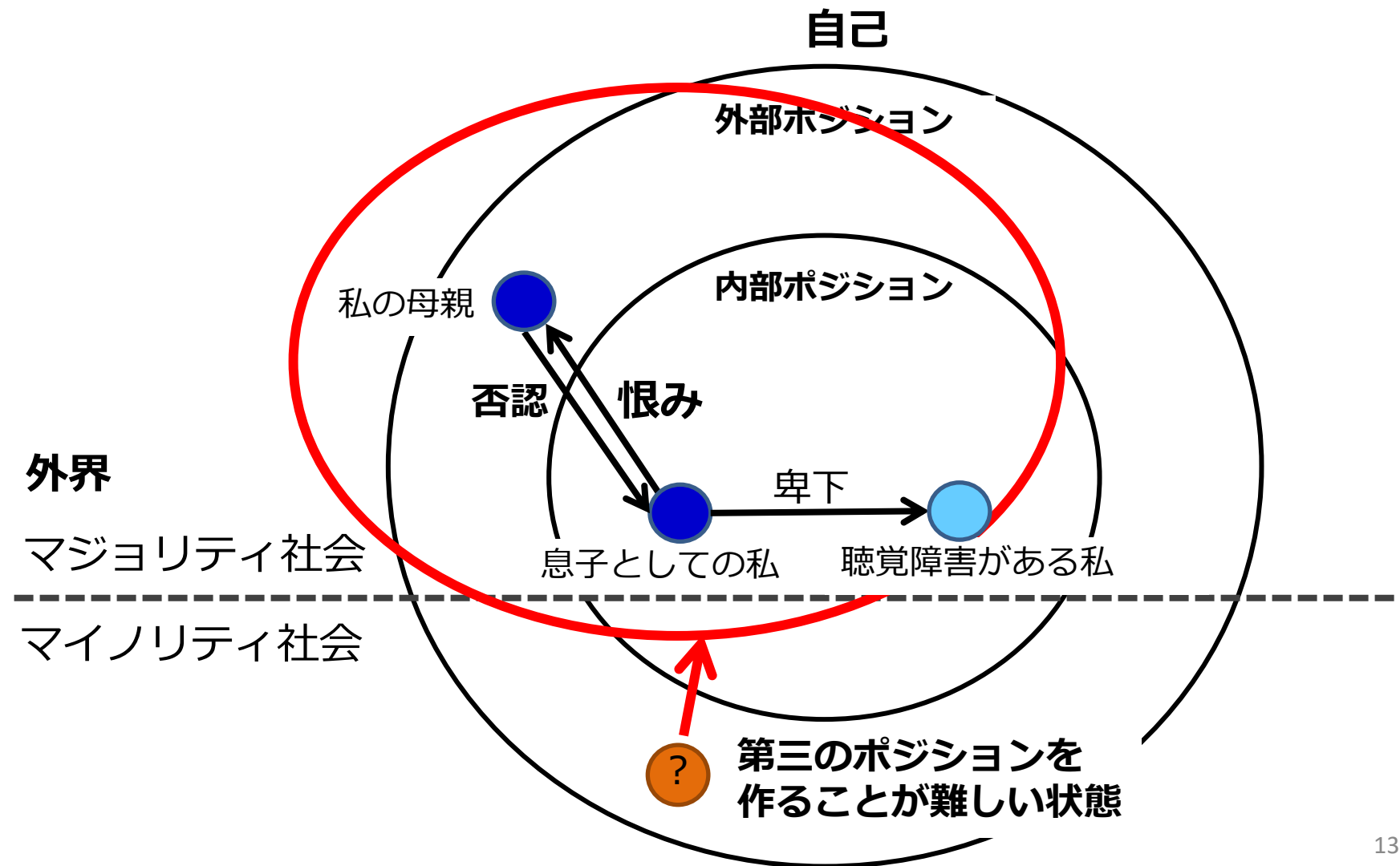
ディスコース  
聴者モデル  
自己努力志向

外界  
マジョリティ社会  
-----  
マイノリティ社会



# Aさんの事例②

ひきこもり中（約20年間）の対話的關係



# Aさんの事例③

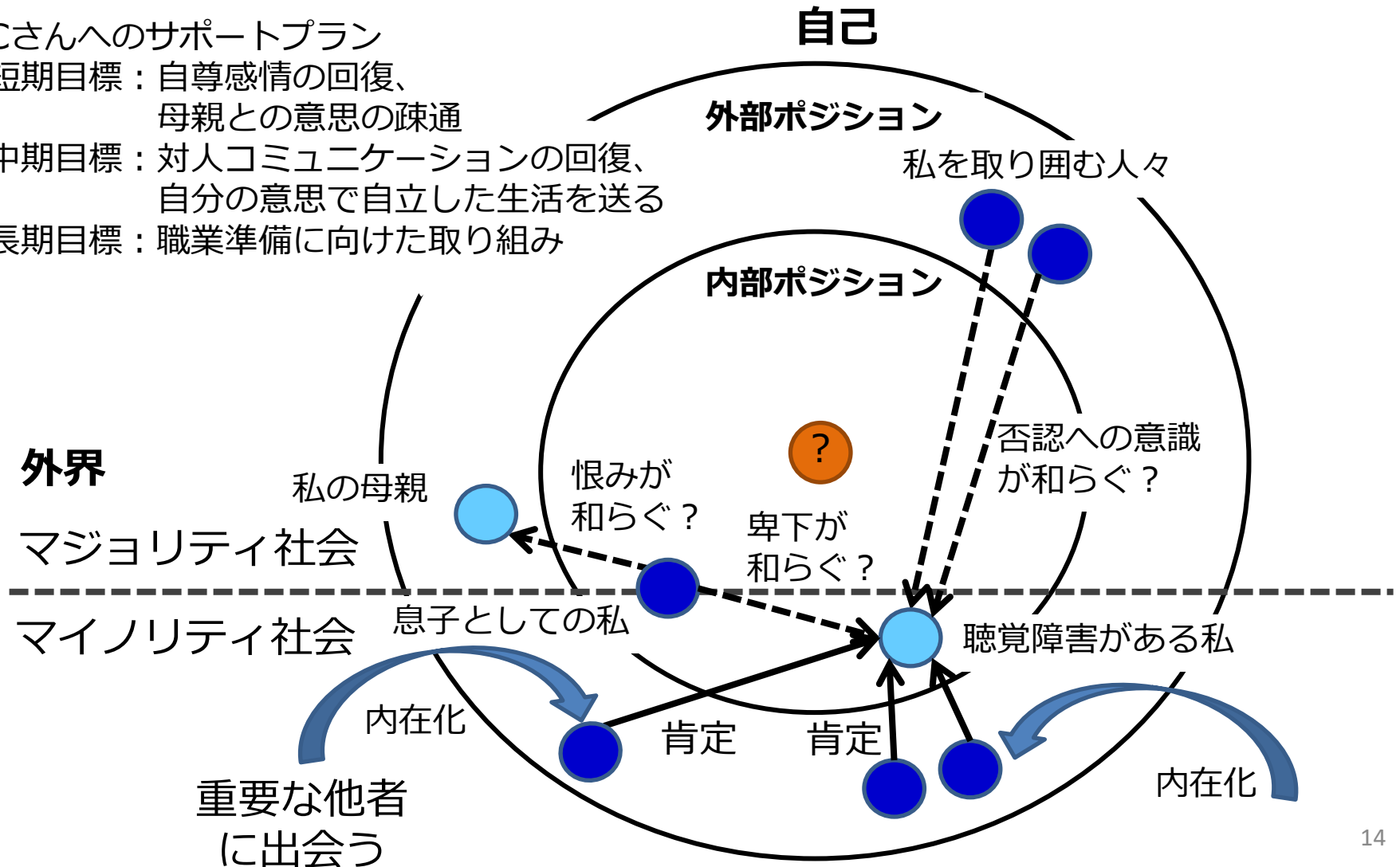
## 重要な他者に出会ってからの対話的關係

Cさんへのサポートプラン

短期目標：自尊感情の回復、  
母親との意思の疎通

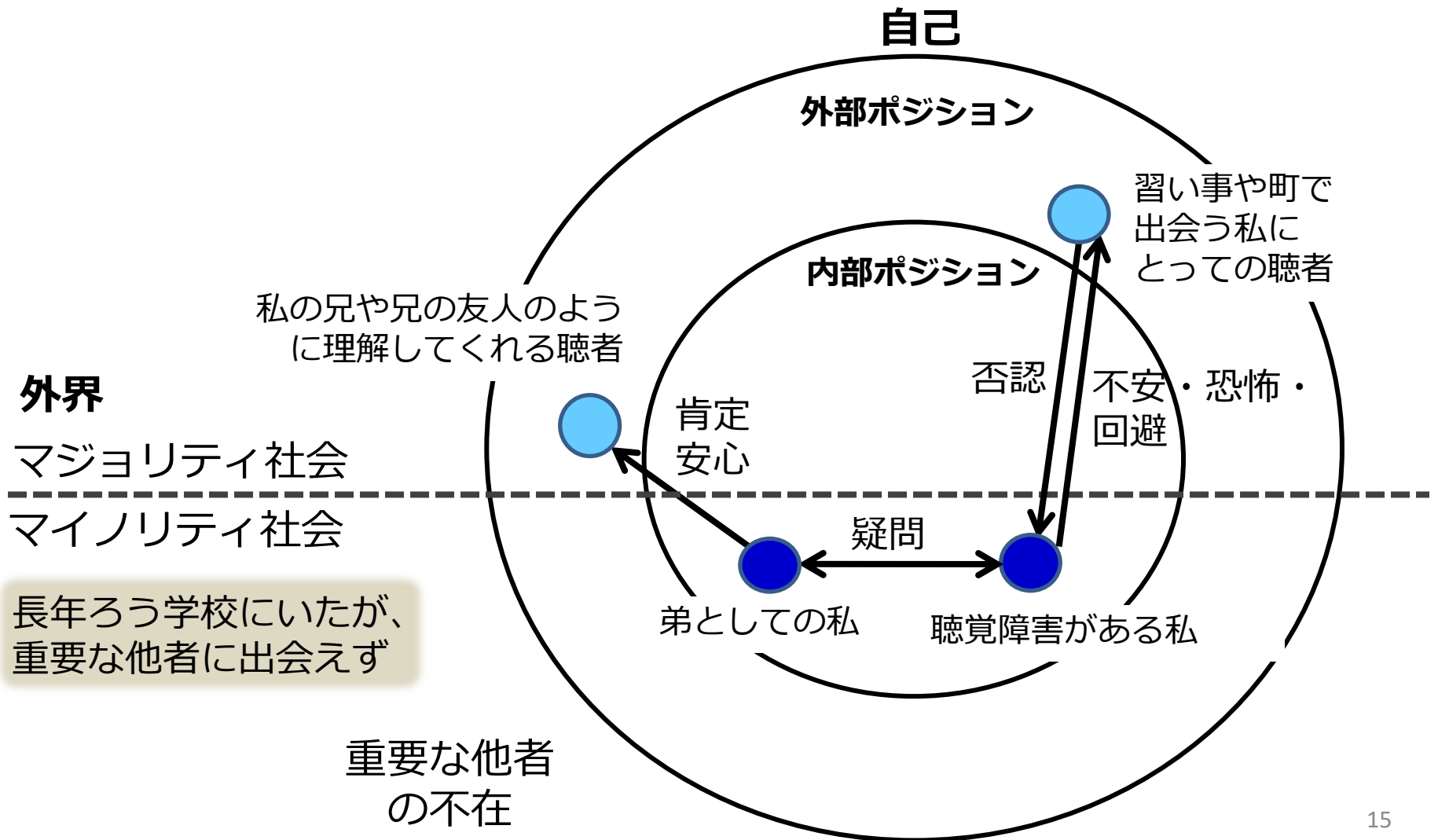
中期目標：対人コミュニケーションの回復、  
自分の意思で自立した生活を送る

長期目標：職業準備に向けた取り組み



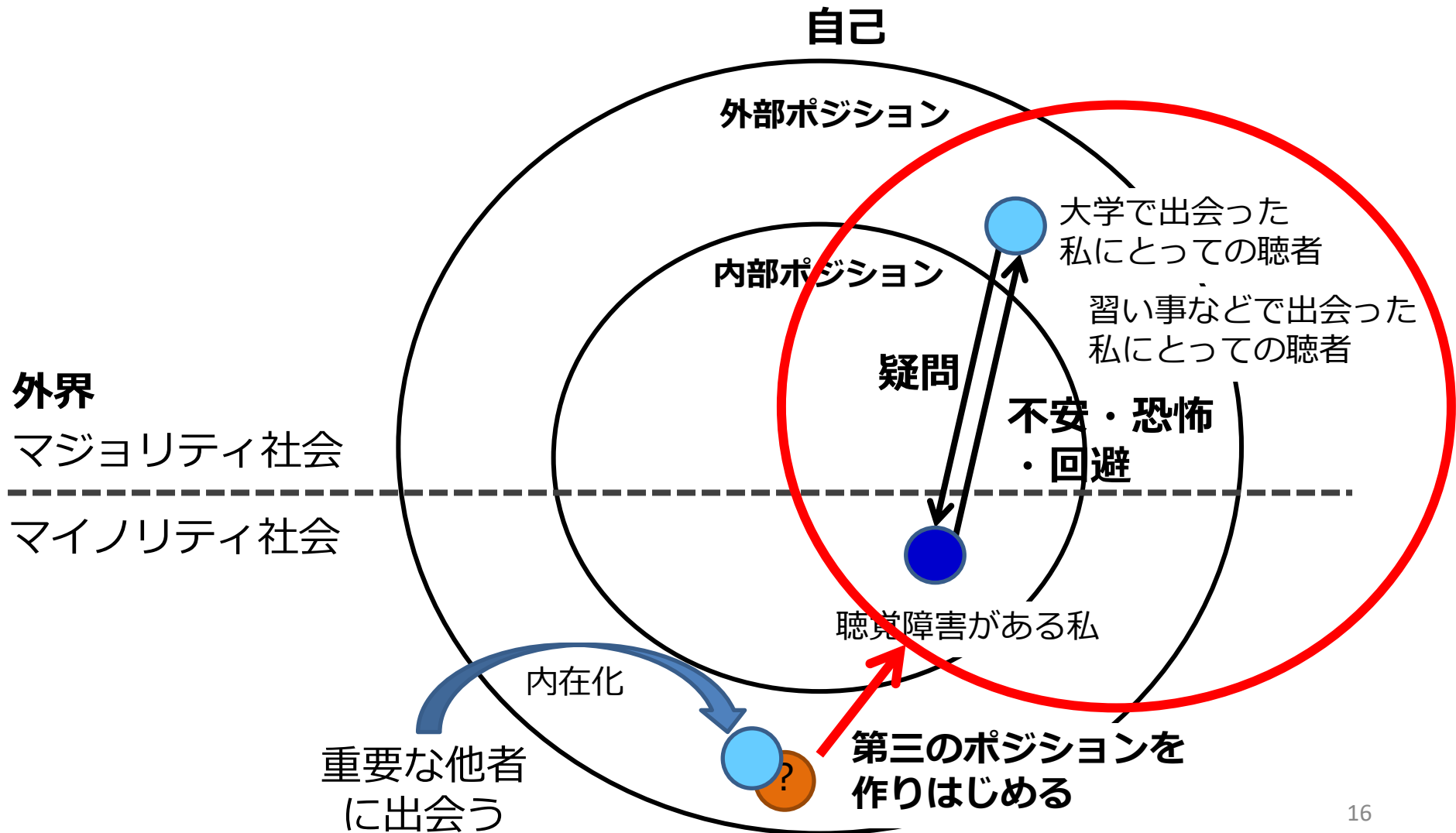
# Bさんの事例①

聾学校（幼稚部～高等部）在籍中の対話的關係



# Bさんの事例②

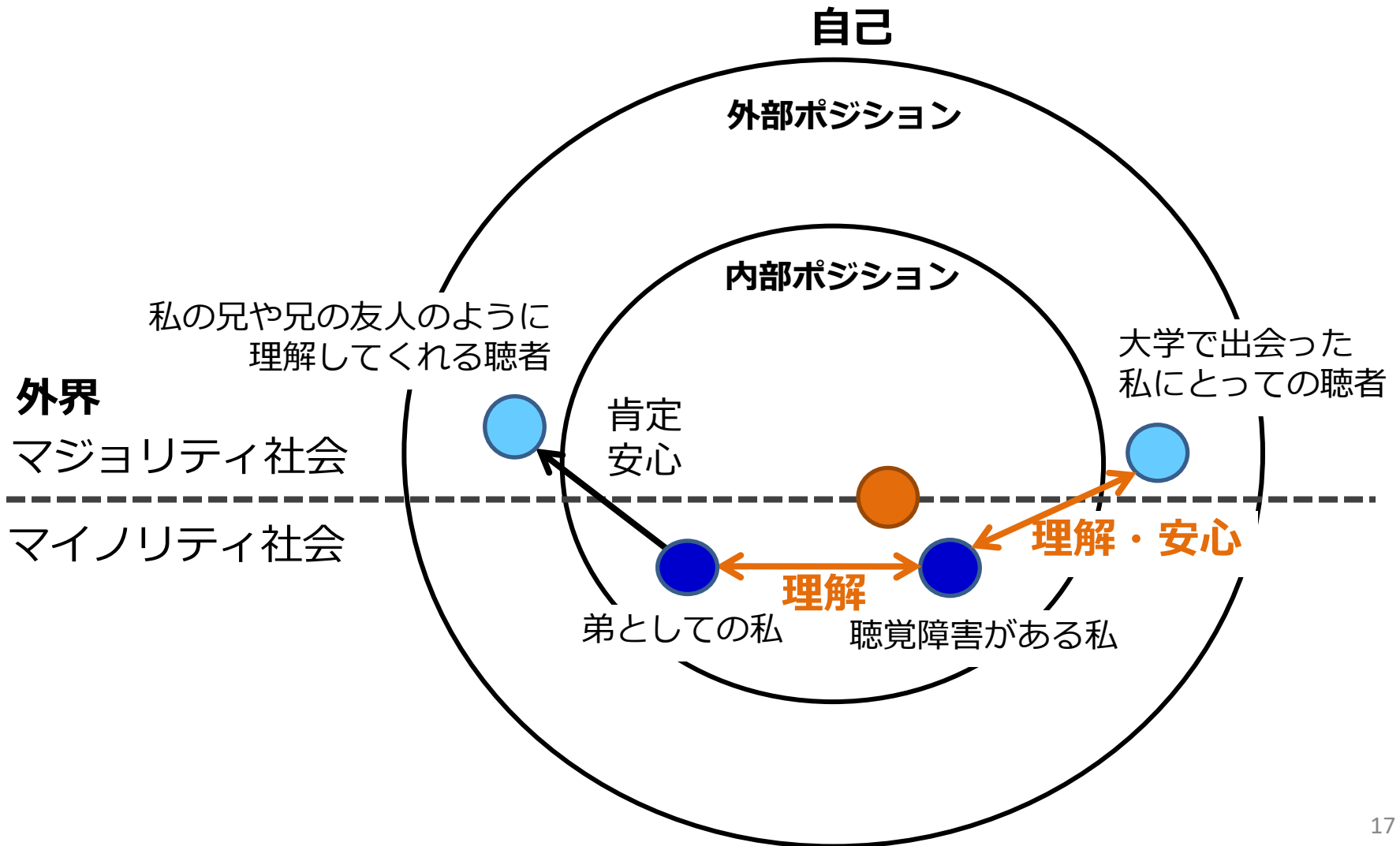
大学入学後以降の対話的關係（I期）





# Bさんの事例③

大学入学後以降の対話的關係（Ⅱ期）



# 「安心してひきこまれる」

## 独りでいられる能力 (the capacity to be alone)

- 心理学者ウィニコットが提唱した概念
- 安心して孤独を楽しんでいられる力
- この力は自己の内的世界に良い対象がいるかどうかによって決まる。内的な対象と良い関係が確立され、それが壊されないでいると、個人は現在と未来に自信をもつことができるようになる。内的な対象との関係ができあがると、内的関係に対する自信が生じてくるとともに、それ自身満足な生活ができるようになる。そうすることで、外界からの刺激や対象がなくても、安心して休息していられるように。

# ろう・難聴当事者にみられるひきこもり (それに相当する状態) について

## ■ どちらの社会ともつながれる自己の回復がテーマになる

### ■ 第一の問題状況

マジョリティ社会にいる重要な他者（親や教員など）が、ろう・難聴当事者と意思疎通できる共通のことばを使えるのか。  
そのようなことばを身につけることを支援する場はあるのか。

### ■ 第二の問題状況

家族や学校教員など重要な他者である聴者と、お互いに感情や困りごとの経験を言語化して対話する経験ができているのか。  
それを支援する体制整備やノウハウの共有がなされているのか。

### ■ 第三の問題状況

以上の課題が長年解消されないために、聴者マジョリティの抑圧によって欠乏状態になった自己愛を回復していけるのか。  
そうしたきっかけを当事者や家族がいかにつかんでいけるのか。